

(電報) 今朝午前五時三十分烈震アリ縣下多少被害ノ模様
追テ詳報ス

同九月
本會宛

岐阜測候所

(摘要) 本月七日午前五時四十一分七秒烈震各郡役所報告
ノ概要左表ノ如シ

地名	震動ノ時間	震動ノ方向	震動ノ強弱	震動ノ性質	摘要	郡役所名
羽栗郡 笠松町		北西			潰家アリ棚上ノ物品落チ藥品店及洋酒店ノ如キハ硝子ノ 毀損多ク笠松以東ノ地方ハ噴水セシ處多シ	羽栗中島郡役所
御嵩町	一分	東西	強		衆擧テ屋外ニ逃ル、東西面ニ面セル時計過半止マリタリ	可兒郡役所
座井町		東南	強	上下動聲響アリ		不破郡役所
上有知郡	五十五秒		烈	上水動 下平動	聲響アリ	武儀郡役所
土岐津町	一分	南北 西東	強	地平動聲響アリ	時計振子止マリ家屋倉庫ノ壁龜裂墜落シ染物屋ノ藍瓶ノ 藍上部二三寸飛出シ陶窯ノ「エンゴロ」ノ積重子タルモノ 概子倒レ破壊シ陶窯中ノ棚崩レ窯ニ龜裂ヲ生シタルアリ 半潰一戸小學校ニケ所横倒或ハ傾斜セリ	土岐郡役所
多藝郡 高田町	一分	南北 東西	強	上地動 下平動	轟々地鳴アリ	多藝上石津郡役所
中津川町	二十秒	南北 東西	強	上地動 下平動	聲響高シ	惠那郡役所
下石津郡 高須町	一分三十秒	南北 東西	強	地平動		海西下石津郡役所
大垣町	二分	南北 東西	烈	上地動 下平動		安八郡役所
高富町	四十秒	南北 東西	強	地平動	聲響甚シ假葺墜瓦落セリ	山縣郡役所
太田町	五十秒	北南	強	上地動 下平動	聲響アリ地盤裂ケ少シク噴水セシ所アリ山腹ノ土石多ク 墜下ス	加茂郡役所
本巢郡 北方町	四十秒	北	強	上下動	聲響アリ器物顛倒井水濁リ或ハ少シク減水セシ所アリ	本巢席田郡役所

八幡町	十五秒	南東	北西	強	地	平動	聲響アリ	郡上郡役所
大野郡	五秒	南北	東西	強	地	平動	聲響アリ	飛騨國 大野益田吉城郡役所
高山町	五秒	南北	東西	強	地	平動	聲響アリ	

今回ノ地震ハ客年ノ大震ト殆ント反對ニシテ西部ニ弱ク東部ニ強キカ如シ岐阜市近傍ノ如キハ石燈籠等ノ轉倒ノ方向ハ南西又ハ西ニシテ水ノ溢レ出テタルモ南西北東又ハ東西トス又客年大震後ハ當地方ヨリモ却テ美濃東部ニ於テ屢地震ノ強キヲ感スルカ如キコトアリ且今回ハ根尾谷地方ハ震動稍輕キカ如シ

同九月七日午十二時發内務省宛

愛知縣

(電報) 今朝午前五時四十二分地震アリ強震時間四分十七秒水平動二分二厘上下動六厘一時混雜ス被害ハ取調中ナレトモ少ナカルヘシ

北海道地震

廿六年六月十四日本會宛

御料局札幌支廳
釧路出張所

(摘要) 本月十三日朝來風雨午後七時當地方稀ナル劇震アリ震動凡ソ二分間翌十四日午前八時四十三分強震アリ震動凡ソ一分間他ニ異變ナシ

鹿兒島地震

廿六年九月八日午前十時五十分發内務省宛

鹿兒島縣

(電報) 昨七日午前二時三十分ヨリ縣下地震數回アリ給黎郡知覽村最劇シク同日午後八時マテ劇震三回ニ及ヒ今猶時

々微震アリ中心點ト思ハル、モ原因分ラス道路ノ破壊大小六十箇所アリ石垣ハ過半崩壞土藏ハ總テ龜裂シ其他地上ノ龜裂少カラス幸ヒ人畜ノ死傷ナキモ人心未タ安堵セス目下非常警戒中ナリ

同月八日十二時十五分發本會宛

鹿兒島測候所

(電報) 昨日ヨリ微震五度強震二度アリ委細後ヨリ

同月九日午後三時四十九分發同上

同上

(電報) 本日二度微震知覽地方劇シカリシニ由リ取調中

同月同日同時發内務省宛

鹿兒島縣

(電報) 昨日ノ電報後知覽村ニテハ劇震六回其他微震鳴動猶止マス同村永里ニテハ山林原野田地ハ反餘一面ノ潰地ニ變シ田地ハ稻株ノ儘埋メラレ原野ハ根株ノ儘轉倒シ第一ノ劇震ニテ井水ト川ハ總テ泥水ニ變シ深サ三間餘ノ井戸ヨリ水震ヒ出シ水ノ乏シキ井戸ハ水量大ニ増シ洪水ノ兆カト人心恐怖ス水色ノ變セシハ堤防等ノ破レタル爲メニアラス水源ヨリ濁リ居レリ居宅ノ半倒一橋ノ破壊ニ

同月十二日午後二時三十分發同上

同上

(電報) 知覽村ノ地震猶未タ止マス十日強震三微震十度十

一日強震七微震十度アリ

同月十四日午後三時
三十一分發本會宛

鹿兒島測候所

(電報) 知覽村ノ地震初メヨリ度數烈一強十三弱三十四微八十猶時々アリ中心ハ同村近傍ト思フ

同月廿日午後
四時廿分同上

同上

(電報) 知覽村地震其後十八日午前マテ強二弱九微二十アリ日々度數減スルノ模様ナリ

同月九日
付同上

同上

(摘要) 一昨日來度々地震アリ當市稀有ノ強震ニシテ特ニ給黎外三郡役所々轄内知覽近傍ハ一昨午前二時廿五分頃烈震ニテ家屋ノ震動甚シク屋内器具顛倒石垣橋梁等ノ損害アリ目下縣官出張調査中ナリ

同月十四日
付同上

同上

(同上) 今回ノ地震ハ給黎郡知覽村近傍最甚シ縣官實地調査セシニ道路橋梁ノ破壞地面ノ龜裂山岳ノ崩壞墓石土藏等ノ傾覆井泉ノ噴出等非常ノ現況ナリ知覽近傍人民ハ今猶夜間ハ戶外ニ起臥セリ

同月九日付
內務省宛

鹿兒島縣

(同上) 本月七日午前二時三十分轟然地大ニ震ヒ震動甚タ激烈五六十年以來未曾有ノ大地震ナリ就中激烈ナリシハ給

黎郡知覽村ニシテ中心點ハ同村大字永里ト思料スルモ原因詳ナラス隣村喜入村穎娃村(海門岳ノアル處)指宿村(溫泉場ノアル處)ハ知覽村ニ比シテ稍薄弱從テ著ルキ被害ナシ知覽村劇震ノ度數ハ本日マテ九回ニシテ微震鳴動ハ三百數十度今猶止マス人民ハ戶外ニ露宿セリ知覽村大字永里ノ中小字桑代、開キ田ノ山林原野田地ハ一面ノ潰地ニ變シ田地ハ稻株ノ儘原野ノ土砂ニ埋沒セラレ山林ノ杉ハ根株ノ儘倒レタリ同村中井戸四箇所ハ七日午前二時三十分ノ初震八日午前八時ノ劇震ノ際水ハ泥灰色ニ變シ地層ヨリ震出セリ(井戸ハ堀抜ニシテ深サ四間以上ノモノ)其他ノ井戸モ總テ變色シ且井水中從來多量ナリシモノハ悉ク汚濁シ少量ナリシモノハ大ニ増加セリ同村麓内川筋ノ流水總テ泥灰色ニ變セリ水源ヲ調査セシニ地層ヨリ汚水ノ湧出スルヲ發見セリ目下被害ヲ調査セシニ知覽村ニテハ倒廐一棟居宅半倒一棟土藏破損十棟石垣崩壞八十八箇所道路ノ破壞六十三箇所堤防同一箇所揖宿郡今和泉村ニテハ家屋ノ破倒一棟馬ノ負傷二頭給黎郡喜入村ニテハ廐ノ破損一棟石垣破壞二箇所延長千四百四十間田畑ノ損害六反五畝十五歩川邊郡東南方村ニテ倒家一棟ナリ

同年十二月十
二日本會宛

鹿兒島測候所

(全文) 先般管下給黎郡知覽村地方地震ニ付テハ鹿兒島高

等中學造士館へ囑託ノ上實地調査中ノ處該館教授理學士玉名程三外一名專ラ學術研究ヲ旨トシ調査シタル結果別紙本縣公報へ登載ノ通ニ候條右御承知相成度此段及御報告候也

(別紙鹿兒島縣公報抄錄)

明治廿六年九月七日以來給黎郡知覽村近傍地震ニ付鹿兒島高等中學造士館へ實地ノ調査ヲ囑託セシニ同館教授理學士玉名程三同工學士吉村兼富專ラ學術研究ヲ旨トシ調査シテ館長ニ復命シタルモノ左ノ如シ

明治廿六年九月七日鹿兒島縣知覽地方ニ於ケル地震調査復命書

鹿兒島高等中學造士館教授理學士 玉名程三
同 工學士 吉村兼富

今回ノ地震ハ當地ニ於テ安政年間以來未曾有ノ強震ニシテ特ニ世人ノ注意ヲ惹起スヲ少シトセス知覽ノ永里近傍ハ震動最劇烈ナリシモ幸ニ人畜ノ死傷ナキモ人心恟々爲ス所ヲ知ラス一時ハ人々戶外ニ出テ疊ヲ竝ヘテ露宿セリ今左ニ其狀況ヲ略陳シ以テ地震學講究ノ用ニ供セント欲ス

一被害

知覽村ニ於テ地震ヲ感セシハ九月七日午前二時廿五分(或ハ二時三十分トモ云フ)ニシテ鹿兒島市ニ於テハ二時四十分三十三秒ナリシ當市ヨリ知覽ニ至ル間所々ノ被害地ヲ見ルニ谿山郡五位野邊ヨリ地盤ニ龜裂ヲ生シタル個所許多アレ其巾一二寸長サ二三間ヲ超ユルモノ少シ然ルニ同所ヨリ西北ニ當ル錫山ニハ巾五寸長サ三間餘ニ及フモノアリト云ヘリ又知覽ニ通スル縣道ノ峠(烏帽子岳、母ヶ岳ヲ迂回シタル新道ニシテ一方ハ谷他方ハ峠ナリ)十五ヶ所崩壞シ道路ヘ落チ其内三四ヶ所ハ木床(新道ノ最高點ニシテ海面上ノ高サ四百四十五メートル)近傍ニシテ最甚シク其土塊道路ヲ塞キ通行ニ不便ヲ感シタリ蓋シ此近傍ノ地質ハ概シテ砂石ニシテ峠ノ中腹ハ土塊落チ凹面ヲ成シ霖雨續クカ又ハ烈風吹カハ自然ニ崩壞ヲ來ス可キ狀勢ヲ呈シ今回ノ地震ノ爲メ破損ヲ生シタルハ別ニ怪ムニ足ラサルモノ多カリシ右ノ外各郡村ニ於テ多少ノ龜裂ヲ生シタル道路アレモ至テ些少ナルヲ以テ之ヲ畧ス

知覽村ニ永久橋アリ(寫眞ヲ見ヨ)石橋ニシテ東北ヨリ西南ニ架レリ橋ノ中央ヨリ巾四尺長サ二間餘破壞シ東南ノ方ヘ落チ殘餘ノ欄干各方位ヘ傾斜セリ是ヨリ數町東北ニ當ル所ニモ石橋アレモ唯二個ノ欄干不規則ニ轉倒シタルノミニテ

別ニ異狀ナシ永久橋ト此橋ノ中間ニ殆ト直角ニ架タル橋アリ其兩端並ニ中央ノ基礎石ハ極メテ堅牢ナル岩石上ニアルヲ以テ少モ損所アラサリシ(寫眞畧ス)

又丸石ヲ積上ケ漆喰ヲ以テ作レルモノ又ハ一二尺高キ基礎石ノ上ニ土ヲ積ミ立テ作りタル石垣等ノ破壊ハ數十ヶ所ニ及ヒタルモ此等ノ石垣ハ殊ニ地震前已ニ多少ノ破痕ヲ帶ヒ石ト漆喰トノ間ニ間隙ヲ生シ居タルモノ最多カリシ故ナラシ(寫眞畧ス)

知覽ヨリ南西ノ方一里餘ノ所ヘ大字永里又東ヘ一里半餘ニ桑代アリ此兩村ヘ到ル道々ニ土手或ハ小岡ノ崩壞シタル個所最モ多シ殊ニ知覽ヨリ少シ隔リタル城山(舊城跡)ノ堀(水ナシ)ニ面スル峠高サ七八間ニシテ中腹ノ部巾二間ヨリ長十間餘ハ破壊シ堀ヘ落チ爲メニ通行ヲ塞ケリ他村ニ於テモ(給黎郡喜入、揖宿郡指宿今和泉、山川、川邊郡川邊、日置郡伊集院、頴娃郡頴娃)右様ナル被害ノ場所アレモ知覽近傍ニ比スレバ至テ薄弱著シキモノナシ阿多郡阿多村、白川近傍ハ被害少キ所ナレモ堤防ニ破壊ヲ生シタルモノ最モ長キモノトス巾不詳ナレモ長サ二十五間ニ及ヒタリ其圖ヲ得タレハ左ニ錄ス(圖面畧ス)

知覽近傍ノ土藏ノ破損十棟ニ及ヒタリ其內被害ノ著シキモ

ノ、一二ヲ驗シタルニ皆基礎石ニ割目ヲ生シ上部ハ圖ノ如ク(ニ)ノ西南ノ角ヨリ西ヘ捻廻サレ(ニ)ハ一寸六分東ヘ又タ二寸北ヘ入り(イ)ニ於テハ一寸前ヘ出タリ(ロ、ハ)ノ二點ハ殆ント動サルカ如ク四本ノ柱ハ左ヨリ右ヘ捻レ壁ハ基礎石ヘ接シタル部分ノミ墜落セリ此土藏ハ新建ニテ一ヶ年ニ滿サルモノナリ此基礎石ハ至テ柔軟ニシテ爪ニテモ崩ル程ナリ房州石ト唱フルモノヨリモ尙ホ脆ク漆喰ヲ以テ繼キタル所ハ裂ケス却テ他ノ部分カ多ク損セリ今左ニ裂タル模様圖ニテ示セリ尙ホ別ニ驗シタル土藏アレモ破損ノ模様前ト同様ナルヲ以テ之ヲ略ス(圖面畧ス)

又タ同村ニ本願寺ノ說教所アリ其門柱ヲ見ルニ西南ニ面シ方八寸位高サ七尺餘ノ石ナリ上部ニ蓋石ヲ戴ケリ二個共ニ西南ヨリ西ヘ回轉セシヲ見タリ

墓所ヲ見ルニ石塔各方位ヲ異ニセリ然レモ西南ヨリ西ヘ捻レタルモノ最多カリシ(右墓石ヲ調査セシハ九月十三日ニシテ石塔ノ甚シク轉倒或ハ捻廻セシモノハ既ニ舊位置ヘ復シタル後ニテ充分調査スルヲ得サリシハ遺憾ナリシ)又タ喜入其他川邊等ニ於テモ西或ハ東ニ向ヒ轉倒セシモノ往々アリ

又タ知覽郡役所ニ稍八人ニテ持上得ヘキ金庫アリ東南ニ面

ス「高サ二尺九寸巾一尺八寸長サ一尺九寸」東南ヨリ南へ五分廻轉シ即チ一度三十分ニ當ル此金庫ノ上ニ二十冊以上ノ簿記帳アリシニ後へ落チタリト云フ此地震ニ甚シキ上下動ノアリシヲ證スル一二ノ事實ナリ

同郡役所ノ本棚ノ上土瓶アリシニ蓋ノミ一尺程飛ヒ出テ土瓶ハ少モ動カサリシト云フ又タ煙草盆ヨリ灰吹ノミ外へ飛ヒタリト云フ

然レモ其方向距離ハ詳ナラス前記ノ事跡ヨリ推考スレハ知覽ニ於ケル震動ハ東北東ヨリ來リシモノナラン

此地震ニ際シ所々井水河水ノ變色シタルモノ多シ且ツ又水量ニ増減ヲ生シタルモノアリ

谷山村上福元ナル慈眼寺ノ井水黃色ニ變シ四日ヲ經テ清水ニ復セリ此水ハ粘土性變質岩石ノ中間ヲ橢圓形ニ穿チ深三尺六寸水ノ深サ二尺八寸ノ所ヨリ出テ可ナリ冷キ水ナリ其溫度一八、一度(空氣溫度ハ二六、一ナリ)是マテ決シテ沽濁シタルヲ無ク又タ雨ノ爲メ濁リタルヲ無キト聞ク上福元身寄ニ在ル井水ヲ見ルニ濁リタルモ翌日八日ニハ舊ニ復セリト云フ河水ハ米洗水ノ色ニ變シ一週間目ニ清クナレリ谷山村平川五位野近傍ノ井水ハ一時濁リシモ概シテ翌日ハ舊ニ復シタレモ河水ハ十日頃ヨリ平日ノ如ク成レリ

新道ノ稍々高キ所ニ堀切ノ下(海面上三百九十メートル)ニ清水アリ其溫度一四、八(氣溫二六、八度)ニシテ少シモ濁ラサリシモ水量大ニ減セリ

知覽永里近傍井水河水ハ泥灰色ニ變シ井水ハ飲料ニ供スルヲ得サリシ喜入村ニ於テモ殆ト同様又タ阿多郡阿多村花瀬、新山白川宮崎邊モ一時濁リ東南方ニ於テハ河水大概白色ニ變シ井水ハ間々泥水色ニ濁リタル所アリ尤モ岡ノ傍等ヨリ出水スル分ハ大概白色ニ變セリ

知覽近傍ニ沿ヒタル流水ハ總テ變色ノ度甚シ其水源(中岳母ヶ岳後ヶ岳等ナリ)ニ溯リ見ルニ上流ニハ少モ異狀ナシ然レモ中途谿間ヨリ水變色シテ出ツルヲ認ム其汚水數流相合シ益々濃厚ナル泥土色ニ變シ下流ニ至リテ愈變色ノ度甚キ理由ナリ又タ喜入ノ方へ流ル、モノヲ見ルニ同岳ヨリ出ツルモ水少シモ變色ナカリシト云フ右ノ外水源許多アレモ左ニ記スルモノ變色ノ度最モ甚シ

郡村ノ東ニ當ル西郷殿新田ニ水源アリ新道ノ峠下ニシテ巾三間余長サ七八間水ノ深サ淺キ所ニテ大凡二尺五寸(水温一七、三度)其底ハ是マデ黑色ノ土質ナルカ地震後一面ニ黃色ノ泥土ヲ堆積シ其厚サ殆ント六七分ニ及ヘリ此源ヨリ湧出スル泥土水ハ最モ濃厚ナリ此泥土ハ地層ノ稍々深キ所ヨ

リ出シナラン通常此ノ近傍ヲ穿ツモ容易ニ此ノ土ヲ見ル
無シト農夫ヨリ聞ケリ

知覽村ノ永里小字中福良ニ於テ井戸三四個ヲ調査シタリ

甲ノ井戸ハ直徑三尺五寸餘ノ圓形狀ニシテ地面ヨリ井底マ
テ八尺水ノ深サ三尺三寸(水温一九、三度氣温二七、八度)初
發劇震ノ際瀑布ノ如ク井淵ヨリ泥土水ヲ湧出シ二三時ノ後
歇ミ漸々減水シ前ノ深サニ成レリト云フ井底ニ竹ヲ突入レ
タルニ三四尺餘モ深ク泥土積載セルヲ認メタリ此井水ハ井
底ヨリ出ツルニ非ラス其側面ニ穴狀様ナルモノアリテ水源
遠キ所ニアルト云フ

乙ノ井戸モ同一ナル異狀ヲ呈シタルト云フモ其度甚シカラ
ス水底マテ深七尺九寸水ノ深サ四尺四寸水温一九、六度ナ
リ

丙ノ井戸モ前者ト同一ナリ

丁ハ甲ト乙兩井ノ中間ニアリテ前者ヨリ稍々深ク水温二
〇、八度少モ異狀ナシ其他段々井水ヲ驗セシニ泥土ヲ湧出
シタル井水ノ温度ハ概シテ異狀ナキ井水ヨリモ低温度ナリ
シ又此泥土ハ井底近傍ノ地層ノ劇震ニ依リテ湧出シタルモ
ノニ非スシテ遠キ水源或ハ其近傍ニ於テ地層變動ノ爲メ此
ノ如ク有シナラン甲乙丙ノ三井中乙丙ハ地震後三四日目ニ

ハ稍々舊ニ復シタレモ甲ノミハ干今(九月十五日)濁リ飲料
ニ供シ難シ又丁ノ井戸ヨリ二十間餘ノ所(庭ノ入口)ニ水一
尺餘噴出シ(甲ノ井水ノ湧出スルト同時)二三時間ヲ經テ歇
ミタリト此水モ泥土色ヲ帶ヒ居レリト云フ

要スルニ是等井水ノ源ハ地震中心或ハ之ニ近キ地層ノ劇震
部ニ沿ヒ急ニ水壓迫或ハ搖動セラレ下層ノ泥土ト水ヲ前ノ
井ヘ多量ヲ送ルニ暇アラス途中皮層ノ柔軟ナル部分ヲ壓シ
破リ斯ノ如ク噴出セシナラン

永里ヨリ桑代ヘ到ル途中ニ小川アリ巾平均一間位平常ハ水
無キモ地震後流水アルヲ見タリ水ノ深サ一二寸ニ通ス水濁
ラス其近傍ニハ被害ト認ムヘキモノ無カリシ

永里ヨリ東ヘ二里弱ノ所ニ桑代アリテ知覽村ト喜入村トノ
界ニアリ道路ヨリ殆ト東南ニ向ヒタル谷間ニシテ總興行百
七八十間入口ヨリ六七十間ノ間ハ平均巾七間餘ニシテ田地
ナリシ殘リ百間餘ノ所ハ巾平均三十四間谷ノ中央ノ所ニ小
岡アリ其左右ニモ岡ノ如キ峠アリ是モ田地ナリ全面積大凡
一町四段餘此處ハ被害ノ最モ大ニシテ奇觀ヲ呈スル所ナリ
今左ニ被害前ノ想像的截斷面ヲ記シテ其狀況ヲ述ヘン
(甲)ニ在リシ山林内杉根株ノ儘六七十間遠キ(乙)所ニ於テ
亂錯轉倒セリ其他雜木左右ニ倒レ奇怪ノ感ヲ起サシム此移

轉ハ決シテ土塊崩レテ(甲)ヨリ(乙)ニ轉ヒ落チタルニハアラサル可シ何ントナレハ其根底ニ附着シタル土塊ノ廣サハ二間或二間半平方ニシテ從來ノ形狀ヲ失ハサルヲ認メタリ又タ(甲)ノ上所ニ在リシト云フ栗ノ大木周圍四尺餘ニ及フモノ七十餘間モ隔タル所ヘ依然ト直立シ其根底ヲ見ルニ土塊其儘ニシテ是決シテ(甲)所ヨリ飛ヒ來リシモノニ非ラスシテ(甲)近傍ノ地盤カニリ落チタルナラン西南ノ方ニ高サ一二尺ニ足サル雜木ト草トヲ以テ茂リタル峠アリ之ニ土塊カ數間モ塗附タル如キ形跡アリ其低所ニハ土塊亂錯セルヲ見ル是地層カ樹木ト共ニニリ落チル際ニ右ノ峠ヘ衝突セシモノト想像セラル之ト同時ニ多少ノ土塊飛ヒ或ハ滑リ落チタルモノアラシ現ニ目撃シタル土塊ノ大サ方一間ヨリ二間高サ二間餘ニ渉ルモノ數塊アリテ其滑リタル道判然ト存シ居リタリ(甲乙圖略ス)

又タ此處ニ奇觀ヲ呈スルモノアリ桑代ノ入口ヨリ十餘間ノ間ハ(稻畑)畚ヲ以テ搬ヒタル如ク各色ノ土小山ヲ成シ順好ク配布セラレ一見蟻ノ小山ノ如シ此ノ如ク土ノ多量ナルニモ拘ハラス殆ント土ノ飛沫ナキハ世人ノ最モ奇異ニ思ヒシ點ナリ(寫眞略ス)

此ノ近傍ノ地質ハ桑代ヨリ東南、及ヒ北方ハ火山岩石質ニ

シテ西南北ノ方ハ第四紀層ニ屬シ殊ニ桑代、永里、知覽、ハ柔軟且ツ脆キ土砂ヨリ成ル右ノ崩レタル土塊ヲ見ルニ(甲)所ノ凹ミタル所ノ高サ(入口ヨリハ十間)二間半位ニテ黑色ノ土砂ナリ樹木ノ根底其中ニ廣カレリ次ハ赤色ヨリ成リ漸々地ヲ穿チ見ルニ是ヨリ七種ノ土アリ最終ノ黑色粘土ハ地盤トモ認メラル、モノナリ是ヨリ上層ノ土質ハ皆土砂ニシテ色ヲ異ニセルノミ少モ粘性ナシ右等ノ土塊滑リ或ハ飛ヒ他物ニ衝突セハ忽チ各層相離レ各自ノ運動量ヲ以テ諸所ヘ飛ヒ更ニ彈性少キ場所(稻畑)ヘ落チ崩レテ前陳ノ如キ小山ヲ成シタルモノナラン(土砂ノ見本アリ第一號ハ地盤ト認メシモノ第二號ヨリ第六號ハ順次上層ノ土砂ナリ餘ノ三種ハ諸所ニ於テ常ニ見ルトコロナルヲ以テ除キタリ地質圖ヲ參考スヘシ(見本及地質圖略ス))

此ノ桑代ノ被害ハ一見最モ甚シキモノナルカ故世人此所ヲ以テ地震ノ中心ト思料スレモ余ハ決シテ然ラスト信セリ抑モ右ノ破壊ハ火氣或ハ地下水蒸氣又ハ瓦斯ノ外面ヘ逃出セントスルノ作用ニ原因セシモノナルヲ調査セシニ更ニ其痕跡タモ認メサリシ是全ク地盤上ニ土砂ノニリ落チタルニ因ルモノトス若此所カ假ニ中心ナリトセハ必ス其近傍ニ異狀ヲ呈セサルヘカラサルニ然ラス是他ニ中心部(或ハ桑代ノ

地下里ヲ以テ計ルヘキ深サ)アリテ爲メニ崩壞ヲ生シタルノミ單ニ之カ爲メ今回ノ如キ地震ヲ起シ各方位(四十里程)ヘ震動ヲ感セシメタルモノトハ認メラレヌ

知覽永里桑代近傍ノ震力ヲ察スルニ却テ知覽近傍カ前ノ二ヶ所ノ近傍ヨリ稍々強キヲ覺ユ且桑代ノ東方ハ山一ツヲ隔テ喜入ヲ界トシ此村ハ知覽ニ比スレハ震力薄弱ナリシ東北方ハ母ヶ岳白髮岳ヲ挾ミ瀨々串平川ニ當リ北方ハ川邊ニ面シ此兩村ハ喜入ニ比シテモ震力尙ホ弱ク他ノ方向ニ於テモ又々微弱ナリシ是ニ於テ考フレハ今回ノ地震ノ原因ハ火山ノ作用ニ非ラスシテ地層ノ陷落又ハ地ニシテ中心點(或ハ中心部)ハ知覽永里桑代近傍ヨリ中岳ニ涉ル地下ノ地層中ニ在ルト認メタリ(此深サ一里以上ノモノナラン精確ナルハ更ニ報告スヘシ本邦ニ於テ計算シタルモノ、中ニテ最小ナル深サハ地下二十二町餘ナリ明治十三年中地震ニ依ル)

地震圖 (圖面畧ス)

今回ノ地震ヲ感セシ地方ニシテ報告ヲ得タルハ(公私合シテ)三十五ヶ所左記ノ如シ

給黎郡 知覽 喜入
揖宿郡 山川 今泉 指宿

川邊郡 勝目 加世田 東加世田 西加世田 西南方

東南方 川邊

谿山郡 谷山 平川五位野 錫山(鑛山)

穎娃郡 穎娃

薩摩郡 向田

鹿兒嶋郡 鹿兒嶋

北伊佐郡 大口

出水郡 出水

始良郡 加治木反土

肝屬郡 中名 高山

東贈啖郡 五十町

阿多郡 花瀬 中五野 浦之名 新山 白川 宮崎

伊作 上ノ首 下ノ首 田布施

日置郡 中伊集院 下谷口

地震報告中最モ緊要ナルモノハ時ニシテ地震回数ヲ比較スルニ於テ甚タ有用ナリ稍々隔リタル三ヶ所ニ於テ精密ニ時刻ヲ知り得タランニハ地震ノ速度及方向ヲモ測定シ得ヘシ哀カナ右報告中時刻ヲ記サ、ルモノ多シ唯回数ニ往々方位或ハ強弱微ノ區別ヲ記シタルノミ地震初發ノ時刻ヲ記シタルハ左ノ三ヶ所ニ過キス

知覽 午前二時二十五分(或ハ二時三十分トモ云フ)

谷山 午前二時五十分

東南方午前二時二十五分

鹿兒嶋午前二時四十分三十三秒(測候所)

宮崎 午前二時三十七分三十五秒(多分宮崎測候所ナ

ラン)

右宮崎ノ分ハ鹿兒島新聞紙ニ依ル右時刻果シテ正確ナルヤ甚疑ハシ何ントナレハ同村内ニ於テモ時ノ甚シク違ヒ居ヲ見ル且ツ何ニ依テ時刻ヲ定ムルヤ僻村ニ於テ如何ナル方法アルヤ知レサレハナリ右卅餘ヶ所ノ報告ヲ閱シ各地地震ノ強弱ノ度ヲ察シ次ニ掲クル地震圖ヲ作レリ劇強弱微ノ四區ニ別テリ劇震線内ノ部ハ震動極メテ烈シク往々石垣道路破壊シ或ハ壁落チ或ハ龜裂ヲ生シタル等ノ地ナリ強震線内ハ震動強ク石塔ノ如キモノ少シク傾キ或ハ液体溢レ出タル等ノヲアリシ所ナリ弱震部内ハ前記ノ異狀ナク確ニ地震ノアリシヲ認メタル地ナリ微震部ハ震動極メテ微々ニシテ往々之ヲ感セサリシヲアリシ地方ナリ

高城南伊佐桑原西嶺嶽諸縣南大隅南地北地ノ諸郡ヨリハ報告來ラサルヲ以テ前ノ曲線ヲ畫スルヲ至極困難ナリ從フテ誤謬ナキヲ保スル能ハス他日必要ナル報告ヲ得ハ訂正シ更

ニ報告スヘシ(圖面畧ス)

一天候ト地震トノ關係

地震ト天候トノ關係ニ付テハ殊ニ世人ノ注目スルヲ深シ左ニ本月四日(即チ地震前三日)ヨリ十日ニ渉ル鹿兒嶋測候所ノ定時觀測(日ニ六回)ノ結果ニ依リテ製シタル曲線ヲ左ニ表シ其參考ニ供ス

地震國ニ於テハ天候ト地震ト相關係スルモノト唱フル者アレモ果シテ然ルヤ否識者未タ疑フ所ナリ此表ハ四日ヨリ十日ニ渉ル空氣ノ壓力溫度並ニ風ノ速度ヲ示スモノナリ氣壓ノ曲線ヲ見ルニ四日午前二時ヨリ漸々上昇シ六日午前十時ニハ最高七百六十四・三「ミリメートル」ニ達シ第二ノ最高ハ午後十時ニ七百六十四・〇「ミリメートル」(當九月ノ平均氣壓ハ七五八・二「ミリメートル」ニシテ是ヨリ漸々減少シ七日午前ノ地震ノ頃ニハ七六三・六「ミリメートル」ニ達セリ)(表中點線ヲ以テ示セリ)是ヨリ彌沈降ヲ始メ八日午後四時ニハ最低ノ七五八・四「ミリメートル」ニ止リ夫ヨリ又漸々上昇ノ傾ヲ呈セリ次ニ風速ヲ見ルニ六日午後十時ニハ一時間ニ四里二十四丁餘ノ速度ナリシカ翌七日ノ地震前後ニハ殆ト無風トナレリ午前十時頃ニハ最大速度(一時間ニ五里十一丁)ニ達シ夫ヨリ漸々減少セリ又々溫度ノ曲線ヲ

見ルニ地震二日前ヨリ上昇シ六日午後二時ニハ三二、六度ヲ示シ(華氏八八、九度)翌七日ニハ稍低ク三二、一度華氏八八、〇度次ノ日ヨリ漸々上昇ヲ始メリ(九月中平均温度ハ二六、七度華氏八〇、一度)之ヲ略言セハ地震一日前ノ間鹿兒島ニ氣壓ハ大ニ沈降セントシ從フテ風速増加シ温度ハ前々日ヨリ上昇セシ等ノ變動アルヲ認ム然ルニ明治十七年十月十五日東京ニ於ケル地震十二三時間前ニハ氣壓沈降シ上昇セントシ又風速ニ於テモ減少セントスルニ際シ地震起レリ是前者ト相反セリ又明治十三年二月二十二日東京ニ起リシ地震ハ氣壓ノ最モ低キトキニアリシ唯温度ニ至リテハ何レモ皆同様ナル變動ヲ呈セリ今左ニ明治八年五月八日ヨリ同十四年十二月ニ渉ル三百九十六回ノ地震ニ對スル氣壓ノ變動ヲ掲ケン

氣壓上昇セシトキ 一六六回

氣壓下降セシトキ 一五四回

氣壓移動無キトキ 七三回

右ノ表ト前記ノ例ヲ見ルニ果シテ天候ト地震トカ相關係スルヤ否直ニ確言シ能ハサルナリ (曲線圖略ス)

附記 今回ノ地震後指宿近傍ノ温泉ニ於テ水温減シ或ハ湯湧出セサリシト世間ニ唱フルモノアレハ是決シテ事實

ニ非ス然レハ去七月十三日頃ヨリ大凡三十日間程湯ノ温度平常ヨリモ低ク湧カサリシト云フ其后雨降リ漸次平常ニ復シ七日ノ地震ニハ少シモ異狀ナカリシト云フ是果シテ地震ニ關シタル異狀ト云フヘキモノナルヤ參考ノ爲メ記シ置クナリ

概シテ大地震アルトキハ小動ヨリ始マリ漸次激烈トナリ夫ヨリ又々漸ヲ以テ鎮定スルモノト云フ今回ノ地震前ニハ必ス知覽近傍ニ於テ微動アリシモノト思ヘリ然レハ精密ナル驗震器ヲ用フルニアラサレハ地ノ微動ヲ感スルヲ能ハサルヘシ若シ其微動ヲ看破シ得ハ之ヲ調査シ地震前後ノ關係ヨリシテ之ヲ豫言スルモ亦難キニアラサルヘシト信ス

尙復命スヘキ事多ケレハ時日無キヲ以テ之ヲ省ク終ニ臨ンテ猶爰ニ一言シテ知覽郡役所並ニ知覽村役場ノ諸員其他ノ諸氏カ調査上大ニ便宜ヲ與ラレシ厚誼ヲ謝ス

右復命ニ及候也

明治二十六年九月二十八日

○右鹿兒島地震ニ關シ郡役所及村役場等ヨリ本會ヘ報告セルモノ、中強震及烈震ノ分ヲ舉クレハ左表ノ如シ

明治廿六年九月七日鹿兒島地震報告表

地名	震動ノ時刻	震動時間	震動ノ方向	震動ノ強弱	震動ノ性質	摘	要	報告者名
鹿兒島	午前二時 四十分廿三秒	一分四秒	北南	強	地平動	北方ニ當リ突然山岳ノ崩壊セルガ加キ響音アルト同 時ニ震動ヲ感セリ		鹿兒島測候所
肝屬村中名郡	午前三時	二秒	乾	強	地平動	据付ノ柱時計止ム		肝屬外一郡役所
給黎村郡	午前二時 廿五分	七秒	北東	烈	地平動			給黎外三郡役所
阿多村白川郡	午前二時 四十分	一分三十秒	北	強	上下動 聲響アリ	河水井水混濁シ堤防破壊セリ		阿多郡阿多村白川 神野三太郎
同宮崎村	午前二時 四十分	一分三十秒	南	強	地平動 聲響アリ			同村宮崎 檢校半四郎
同新村	午前二時 四十分	一分餘	東	強	地平動 聲響アリ			同村新山 德永長次郎
同浦ノ名村	午前二時 四十分	一分餘	北東	強	地平動			同村浦ノ名 觀音寺市太郎
同花瀬村	午前二時 四十分	一分三十秒	南東	強	地平動 聲響アリ	震動前砲聲ノ如キ響アリ万ノ瀬川水濁リ堤防破損一 ヶ所アリ		同村花瀬 後野貞次郎
同中津野村	午前二時 四十分	一分三十秒	南東	強	地平動 聲響アリ			同村中津野 中野三太郎
阿多作村郡	午前二時 五十分		北	強		井水二三ヶ所濁レリ		阿多郡伊作村長
同田布施村郡	午前二時 二十分	二分	南東	強	地平動	當地方古老ノ會テ知ラサル劇震ニシテ崖土ノ崩壊道 路土藏ノ龜裂等アリ井水河水ハ概子白色ニ變シ墓石 ノ顛倒渺カラス		同郡田布施村長
谷山山村郡	午前二時 五十分三十秒	四分	西北	強	地平動 聲響甚シ	道路ノ龜裂土石ノ崩落アリ河水井水濁ル		谷山山村長
高城郡	午前二時 三十五分	三十五秒	北西	強	上下動 聲響アリ			高城外三郡役所
日置郡	午前三時	一分	北	強	地平動			日置外一郡役所

附記 九月七日午前二時四十分大隅國北大隅郡西櫻島赤間ノ内新島ハ北方十六間幅四間餘龜裂シ後十二日午前十一時頃同所ニ海嘯起リ長十間幅八間許ノ地崩壊セリ他ニ異狀ナシ(鹿兒島外二郡役所報)

○右九月七日ノ地震後同年中ニ於ケル強震ノ報告ヲ舉クレハ左表ノ如シ

地名	震動ノ月日時	震動ノ時間	震動ノ方向	震動ノ強弱	震動ノ性質	摘	要	報告所名
鹿兒島	九月八日午前七時十五分廿秒	三十三秒	東西	強	地平面動 聲響アリ			鹿兒島測候所
給黎村郡 知覽村	同日午前二時三十五分	六秒	北東	強	同上			給黎外三郡役所
同上	同日午前七時十分	四秒	北東	強	同上			同上
同上	同日午前七時四十六分	四秒	北東	強	同上			同上
同上	同日午前十一時五十分	六秒	北東	強	同上			同上
川邊郡 東南方村	同日		東北	強				同上
同 西南方村	同日		北南	強				同上
同 東加世田村	同日		北南	強				同上
給黎村郡 喜入村	同日		北南	強				同上
川邊郡 東南方村	同日		東北	強				同上
給黎村郡 喜入村	同日		西北	強				同上
同上	同日			強				同上

川邊郡	同十二日	東北	強		同	上
今和泉郡	同日	北西	強		同	上
同上	同十三日		強		同	上
給黎郡	十月十五日午前六時三十九分	北東	強	地平動	同	上
知覽村	十月十五日午後五時四十分四十一秒	南西	強	聲響アリ	同	上
鹿兒島	十月廿五日午後五時四十分四十一秒	東西	強	地平動	鹿兒島測候所	

苗場山鳴動

新潟測候所

(摘要) 南魚沼郡苗場山ハ一ノ消火山ニシテ數箇所ノ鑛泉

アリ字奈良津邊ハ燒石ノミニシテ硫氣ヲ發スル處アリ草木生セス然ルニ本月八日午前八時ヨリ同十七日マテ此山ノ方位ニ當リ鳴動スルヲ十回ニシテ毎回鳴動ノ時間ハ三秒乃至五秒時間宛モ遠方ニ於ケル大砲ノ響ノ如シ但八日午前八時ノ鳴動ハ稍強カリシ

霧島山鳴動

宮崎縣

(摘要) 本月廿一日午後七時四十一分頃霧島山非常ニ鳴動

シ但人畜被害ナシ右震動ノ爲メ當地ニ於テハ地震ノ如ク感セシモ地震計ニハ感セス

同月廿七日同上

同上

(摘要) 霧島山鳴動取調ヘタルニ一時非常ニ鳴動噴火セシ

ノミニテ人畜其他被害ナシ

同月同上

鹿兒島縣始良外二郡役所

(摘要) 十一月廿一日午後七時三十分霧島山近來稀ナル破

裂ニシテ凡ソ十町四方ニ火石ヲ飛ハシ其大ナルハ周圍一丈五尺アリ小火石ハ右方里一面暫時火ノ岡トナリ震動凡ソ十里四方ニ及ヒ噴烟スルヲ一晝夜七八回ナリ(西增味郡東襲山村役場報)

伊勢海異狀

三重縣津測候所

(摘要) 奄藝郡豐津村白塚村等ノ沿岸ニ於テ海底ヨリ泥土

噴出シ爲メニ曳網等ノ漁業ヲ障礙スルヲ尠カラス此原因タル漁夫ノ言ニ據レハ本年夏期非常ノ旱魃ナリシ故ナラント云ヘリ

同月十日同上

同上

(摘要) 奄藝郡豐津村等海岸泥土噴出ノ件曩ニ報告セシカ

右ハ全ク海床ヨリ噴出スルニアラスシテ海底ニ沈澱セル泥土ノ波濤ノ攪拌ニヨリテ混濁セシモノニ外ナラサルヘシト

考フ左ニ其取調上ノ狀況ヲ記サン

泥水擴布ノ區域 白塚村及豐津村近傍ニ於テハ海岸ヲ距ル百五十間乃至三百間ノ沖間ニ於テ幅最廣キハ二里狹キハ二三百間ノ間一面ニ泥水ヲ呈シ白子沿岸ニ至リテハ其距離漸ク遠ク一里以外ニ於テ處々此現象ヲ呈セリ而シテ此他阿漕ケ浦ヲ始メ沿岸處々ニ泥水浮游セリ

泥水浮游ノ現象期日 八月二十日頃ヨリ之ヲ呈シ即今尙引續クモ泥水次第ニ沈澱シ稍回復ノ狀アリ

泥水浮游ノ現象 始メテ本年ニ發シタルモノニアラス明治三年頃ヨリ年々多少此現象アレモ本年ハ特ニ例年ヨリ甚シカリシノミ

泥土浮游ノ原因 察スルニ伊勢海岸ヲ距ル數丁ノ海底ニハ一帶ノ海草茂生シ此區域内ニハ多量ノ泥土ヲ沈澱シ波浪ノ動搖ニ逢フモ海草中ニ包圍セラル、ヨリ他ニ流奪セラル、ヲナク海水ノ混濁ヲ呈セサリシモ舊七八月頃ニ至リ海草ノ枯槁スルニ際セハ波濤ノ攪拌ニ依リテ沈澱ノ泥土ヲ浮游セシムルニ至ル是レ例年舊盆後ニ於テ海水混濁ノ現象アル所以ナランカ而シテ本年ハ非常旱魃ノ爲メ自然海水鹽分強ク海草ノ繁茂著ルク從テ沈澱セル泥土ヲ包圍スルノ區域ヲ廣メタリシモノカ海草ノ枯死スルニ從テ多量ノ泥土ヲ浮游セ

シメ終ニ海水ノ混濁スルコト一層甚シキニ至リシモノナルヘシ

三池郡地盤龜裂

廿六年十月十一日內務省宛

福岡縣

(摘要) 九月廿八日三池郡大牟田町大字下里字笹林近傍ノ地面龜裂或ハ陷沒シ其形狀一ナラス田面ノ縱裂セシハ延長十間餘口幅三四分乃至五六分其陷沒セシ田ハ或ハ汎濫シ或ハ涸渴セルアリ養水溝渠ノ縱裂セシモノ延長二十間ニシテ溝中全ク涸渴セシ部分アリ又家屋ノ壁ハ二三分許間隙ヲ生シタリ翌日ニ至リテハ田面縱裂ノ幅四寸餘ニ及ヒシナリ且新ニ數箇所ノ龜裂セシ處アリ右ハ三池炭山探炭地ニテ探炭中ナリト云ヘバ坑内ノ異動ヨリ斯ク地上ニ變動ヲ起シタルモノナラント考ヘ鑛山監督署ニ通知セシニ技師出張シ危險ノ虞アリト認メ豫防工事ヲ命シタリト云フ

高瀬川變色

廿六年十一月廿六日本會宛

長野測候所

(摘要) 昨廿四日午前九時頃ヨリ高瀬川水色藍灰色ニ變シタリ但原因不明調査中(大町警署報)

同十二月五日同上

同上

(摘要) 高瀬川水變色ノ原因ヲ調査セシニ元來高瀬川ハ湯股水股ト稱シ沸騰セル黑色鑛泉質ノモノト純粹ナル清水トノ二種ノ水源ヨリ成レルモノニシテ平時ハ水股ノ水量湯股

ヨリ多クシテ二者混流セルモ下流ニ於テハ通常ノ水色ニ異ナラス然ルニ去廿四日俄然變色ヲ來セシハ湯股水ノ湧出平常ヨリ多量ナリシ爲メ一時變色セシニ過キスト但水源ノ山嶽ニハ異狀ナク且變色ノ爲メ人身ニ害ヲ及ホシタルヲ聞カス(上同)

小樽港暴風

廿六年十二月廿八日內務省宛

北海道廳

(摘要) 小樽地方ニ於テハ本月廿五日午前二時頃地震アリ同三時頃ヨリ北西ノ暴風雪トナリ時々雹ヲ交エ咫尺ヲ辨セス港内怒濤大ニ起リ突堤及海岸石垣等破壞甚シク破船數十艘家屋ノ破損枚舉ニ遑アラス人畜ニハ死傷ナシ其他各郡被害ノ景況ハ取調中ナリ

鹿兒島地震

廿七年一月五日午前九時廿五分發本會宛

鹿兒島測候所

(電報) 昨夜十時九分強震一弱微震續發セリ

廿七年一月八日內務省宛

鹿兒島縣

明治廿七年一月四日鹿兒島地震報告表

地名	震動ノ時刻	震動ノ時間	震動ノ方向	震動ノ強弱	震動ノ性質	摘要	報告所名
鹿兒嶋	午後十時九分十四秒	二分	東西	強	地平動	客年九月ノ地震ヨリモ強カリシカ如シ初震後五秒時間許ニシテ印象轉倒シタルカ爲メ精確ノ觀測ヲナス能ハス	鹿兒嶋測候所
南伊佐郡	午後十時五十分廿秒	卅分二十秒	南西北東	強	地平動	初震ノ際鳥類ヲ驚カシタルノミ他ニ異狀ナシ	高城郡役所

(摘要) 昨年九月給黎郡知覽村地震以來毎月同村地方微震數アリシカ本月四日午後十時廿分劇震アリ其後十分二十分又ハ三十分間ヲ隔テ、震動シ今日ニ至リ微震猶止マス昨年九月ノ地震ニ比スレハ知覽地方ハ震力薄弱ナリシモ川邊郡地方等ハ却テ強烈ナリシ然レモ中心點ハ依然給黎郡知覽村ニ在ルカ如シ給黎、川邊、潁娃、谿山ノ諸郡川水概ネ濁リ川邊、谿山、日置郡等ノ畑地原野崩壞セシ處アリ其他目下取調中

廿七年一月十七日同上

同 上

(摘要) 前報後被害ノ景況ヲ調査セシニ阿多、川邊、日置、谿山ノ四郡ニ於テ田畑ノ被害七畝山岳ノ崩壞廿九箇所道路決潰十一箇所橋梁同一ノ箇所ナリ
○右鹿兒島地震ニ關シ測候所及郡役所等ヨリ本會へ報告セルモノ、中強震及烈震ニ屬スルモノヲ舉クレハ左表ノ如シ

揖宿郡 山川村福元	午後十時 二十分	四十五秒	北南	強	地平動	震動止ムト同時ニ南方ニ鳴動アリ	揖宿郡 山川村長
額娃村郡	午後十時	三十秒	北東		地平動		額娃村役場
阿多郡 阿多村花瀬	午後十時 二十分	一分	北南	烈	地平動	翌日午前五時頃マテ強震十數回毎回遠雷ノ如キ響アリ	阿多郡 阿多花瀬村長
伊多郡 伊佐村	午後十時 十五分	三分	南西	強	地平動	河水、井水少シク濁リ土砂落チ畑宅地道路ノ龜裂家屋ノ破損墓石ノ顛倒等アリ昨年九月ノ地震ニ比スレハ稍強カリシ	阿多郡 伊佐村長
阿多郡 田布施村	午後十時 五分	四分	南	強	地平動	昨年九月ノ地震ニ比スレハ震動甚シク且時間長カリシ屋上ノ崩壊道路ノ龜裂大小若干ヶ所墓石ハ概子倒レ井水濁レリ	阿多郡 田布施村長
高城郡	午後十時 十九分	五分	南西ヨ 東	強	地平動	聲響ハ戶外通車ノ轟クニ似タリ十時四十分及ヒ翌日午前十時五十分強震アリ	高城外三郡役所
日置郡 中伊十院村	午後十時 二十分	二分廿五秒	東	強	地平動		日置外一郡役所
北伊佐郡 大口村	午後十時 二十分	二分	北東ヨ 起 リシト認ム	強	地平動		大口郡役所
出水郡 武本	午後十一時 二分十五秒	一分四十秒	北東 南西	強	地平動	震動前ニ響アリ	出水郡役所
川邊郡 東加世田村唐仁	午後十一時	四十五秒	東	強	地平動		川邊郡 東加世田村長
原字南村					地平動		
同加世田村	午後十時 十五分	二分	西南	強	地平動		同加世田村役場
同目村	午後十時 二十分十八秒	十秒	南	強	地平動	翌日午前五時十四分強震アリ震動間五秒	同勝郡 目村長
同東南方村	午後十時 十五分	八秒	不詳	強	地平動		同東南方村長
肝屬郡 鹿屋村中名	午後十時 三十五分	二分	西東	強	地平動		肝屬外一郡役所

岐阜地震

廿七年一月十日午後八時

(電報) 唯今強震二回アリシモ被害ナシ

名古屋地震

廿七年一月十一日

(電報) 昨日午後六時強震一回同四十五分烈震一回微震十

數回何レモ被害ノ模様ナシ

同十一月十二日午前十一時三十分發本會宛

名古屋測候所

(電報)

十日ノ烈震ハ尾張北西部ニ於テ強ク葉栗郡ハ昨日晝マテ大小百五十回震動シ地盤龜裂泥砂噴出ノ高サ二尺潰家多少アリ人民假小屋ニ避難ス丹羽郡モ地裂ケ井水濁リ壁ヒビレ棚ノ物落チ時計止マリ今朝マテ震動四十九回

小樽港暴風

(廿六年十二月廿七年一月四日報告ノ續) 內務省宛

北海道廳

(摘要)

昨十二月廿八日報告後被害ノ景況ヲ取調ヘタルニ岩内郡ニ於テハ溺死三人壓死一人家屋、倉庫等ノ全潰破損船舶ノ全破破損等頗ル多ク浸水家屋三百餘戸ニ及ヒ同地方未曾有ノ被害ナリ小樽地方及餘市、壽都、歌棄、島牧、磯谷ノ諸郡ニ於テモ家屋其他建物ノ全潰流失破損船舶ノ全破棧橋ノ流失破損鐵道線路堤塘ノ破損崩壞電柱ノ折損等甚シ其他渡島國函館及有珠郡、石狩國厚田村等ニ於テモ多少ノ被害アリ

同十一月十八日同上

同上

(摘要)

暴風被害ヲ調査セシニ後志、渡島、天鹽、石狩、日高、北見、膽振ノ七箇國ニ於テ死亡四、負傷二、家屋ノ流失十九、全潰三百、破損六百三十五、船舶ノ流失三十四、同全破百五十七、同破損二十六ナリ

霧島山鳴動

(廿七年二月二十五日午前十一時廿七分發本會宛)

宮崎縣

(電報)

只今縣下霧島山鳴動ス

阿蘇山鳴動

(廿七年三月十四日內務省宛)

熊本縣

(摘要)

阿蘇山本月六日鳴動シ同十一日午後ヨリ十三日マテ時々霾ヲ降シ十三日午前再ヒ鳴動シ黑烟高ク噴出シ砂粒大ノ霾ヲ降スヲ十分間許ナリ

同三月十七日同上

同上

(摘要)

前報後續テ噴烟午後零時三十分ニシテ漸ク減シ山巔晴朗平日ノ如クニナレリ是ヨリ先キ黑烟ノ盛ニ噴出セシ片ハ天地晦冥霾ルヲ頻ニシテ硫黃ノ臭氣甚シク近傍ノ地ハ霾ノ堆積スルヲ五分乃至一寸七八分且燒石ヲ噴出セリ